

**牧場で育った
三つ子の兄と三つ子の妹
家畜が肉にされるという
残酷な現実を知る
その後兄たちが妹たちを
誘い、大乱交へ**

とある牧場に、6人の兄妹がいた。

いたって珍しいことであるが、お兄ちゃんが三つ子の男の子で、妹が三つ子の女の子だ。年はわずか一歳半違うだけである。

6人は学校へも行かずに幼少のころからひらすら家業である酪農の手伝いに励み、将来はこの牧場の跡継ぎをするというルートも約束されている純朴な田舎の兄妹である。

彼らは牧場で育てられた牛たちの乳を飲み、豚の肉を食べて育った。

健康的な牧草を食し、広々とした大地で育った家畜たちの出すミルクや肉は栄養たっぷり、必然的にそれらを食べて続けてきた6人の兄妹はこれ以上ないくらいの健康ぶりであった。

幼い頃は広々とした牧場で自由に遊びまわり、飛びはね、家畜たちと戯れ・・・という具合に純粹だった6人であったが、年齢を重ね思〇期に入ると彼ら彼女らの中に“性”が芽生え始める。

そして次第に、兄妹でありながら3人の異性同士として互いを意識するようになる。

そんなある日、6人はそれまで平和だとばかり思っていた実家の牧場の“残酷な側面”を知ることになる。

もっとも、ものを知らないのは彼ら彼女らだけに限った話ではない。大自然で育った多くの子供たちは、何も知らずに平和な世界で生きていく。

しかし・・・。

物心がつくというのだろうか。世間を知る、あるいは現実を知るとも言えるかもしれない。

いつしか子供たちは自分たちが実は“平和”の中だけで生きているわけではないことを知るのだ。

そして、牧場で育った6人にとってもそれが“現実”を知るきっかけとなった。

「ブギャー——！！グギャアア——！！」

泣き叫ぶ家畜の豚たち。

肉にされるために殺されるのだ。

いつも平和に牧草を食べ、平和そうに昼寝ばかりしてたはずの豚が。

自分たちともに生きてきた豚が！！

「見ておくんだ。これが牧場の裏の姿だ。この残酷な姿があつてはじめて私たち、ひいては人間たちは美味しい肉が食べられるんだぞ」

白いあごひげを生やしドス黒い顔色をした父親は、至って真剣な眼差しで6人に語りかけた。

穏やかだった父親がそれまで見せたことのない目つきに見えた……。

そしてその日の夜……。

泣きじゃくる妹の3つ子。

体験版はここまでです